

みずから守るプログラム

大雨行動訓練(室内トレーニング編) 実施手引き

運営者(町内会役員)向け



Ver.1.1



目 次

I. 大雨行動訓練（室内トレーニング編）の目的.....	1
II. 事前準備.....	4
III. 実施内容.....	5
①マイ・タイムライン作成（45分）.....	5
②避難判断トレーニング（60分）.....	6
③クロスロード（30分）.....	7
参考：全体のプログラム案.....	8
参考：大雨行動訓練の水害シナリオ.....	9
参考：マイ・タイムライン記入例.....	10
参考：大雨行動訓練クロスロード.....	11

I. 大雨行動訓練(室内トレーニング編)の目的

「大雨行動訓練（実働編）」は、市町村から自治会長、町内会長を経由して全世帯に一斉連絡し、全員で一斉行動する想定での内容であり、行政から発令される情報を知ってもらうことや、手づくりハザードマップを活用した訓練、町内会としての結びつきを強めることに役立てることを目的としています。

しかしながら、水害は地震とは異なり、標高や河川との距離等で被害が大きく異なる特徴があり、そうしたことから以下のような課題も見られています。

- 町内会会長が不在のときに連絡が来ない可能性がある
- 連絡網はできていたとしても、全ての世帯に連絡ができるか不明である
- 地域の中でも家屋ごとに水害危険度は異なるが、一人ひとり取るべき行動がわからない
- 住民が「情報を待つ」姿勢になってしまい、「みずから守る」姿勢の醸成が必要である 等

このため、大雨行動訓練（室内トレーニング編）では、大雨行動訓練（実働編）から一歩進んで、以下の3つの取組を実施します。



■訓練実施に向けた参加者の心持ち 『水害時の対応に正解はない』

水害は、雨量や水位に応じて刻々とリスクが変化し、そのリスクもお住まいの条件（地形、建物、河川との距離等）によって、地域一様ではありません。

「大雨行動訓練（室内トレーニング編）」では、水害シナリオに沿って、どの局面で避難判断を行い、どのようなタイミングで避難行動を移すのかを各人が考える体験シミュレーション型の訓練です。

大雨行動訓練（室内トレーニング編）を導入するにあたり参考とした事項について

■マイ・タイムライン

各地で毎年のように大規模な洪水が発生し、異常気象が日常となりつつあります。

大雨が降り、川から水があふれる前に安全な場所に移動しておくためには、どのように川があふれるかを知り、それに応じた備えをしていく必要があります。安全な場所への距離、移動するスピードは人によって異なるため、自分自身の家族構成や生活環境を踏まえて自身の洪水リスクを把握し、慌てずに逃げる準備を整え、逃げ切れるタイミングで逃げ始めることが重要です。

いざという時に慌てずに行動するために、大雨が降る前から川の水があふれるまでの間に、いつ、何をするのかをあらかじめ時間軸を意識して整理することを目的としています。

■避難判断トレーニング

想定される水害シナリオ（タイムライン）に応じて行政・メディア等から提供される情報を体験いただき、避難判断をトレーニングするものです。実際の災害局面で、どんな情報が来るのか、いつ判断・行動するのかを体験できます。

台風は発生から被害発生まで予報や前兆時間があり、大きな河川では徐々に水位が上昇します。本プログラムでは、台風の接近に伴う豪雨による大河川の氾濫を想定したタイムラインとしています。

■クロスロード（大雨行動訓練編）

阪神・淡路大震災を受けて、大地震の被害軽減を目的に文部科学省が進める「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」の一環として開発されたもので、2004年7月に最初となる「神戸編・一般編」がチームクロスロード（京都大・矢守教授、慶應大・吉川教授など）により作成されました。

災害対応においては、必ずしも正解があるとは限らず、また、過去の事例が常に正解でないこともあります。ゲームを通じ、それぞれの災害対応の場面で、誰もが誠実に考え対応すること、また、そのためには災害が起こる前から考えておくことが重要であることに気づくことを目的としています。

※「クロスロード」はチームクロスロードの商標登録です。愛知県では、川の防災情報の普及啓発を目的として「クロスロード（大雨行動訓練編）」を製作し、チームクロスロードと覚書を交わしました。クロスロードの目的外使用や設問の改変をしないよう、お願いいたします。

「マイ・タイムライン」とは？

【考える】わたしのマイ・タイムラインをつくろう！！

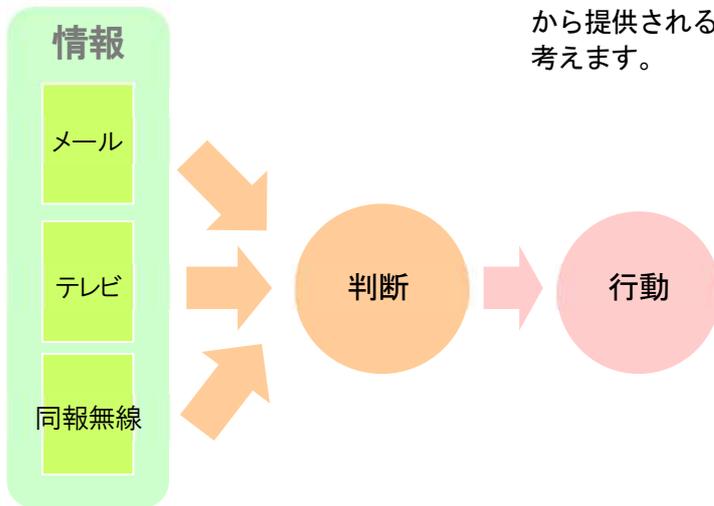
時間	1	2	3	4	5
避難場所の確保	避難場所を確認	大規模な避難所、近所は避難所	1人1人避難所、近所は避難所	1人1人避難所、近所は避難所	1人1人避難所、近所は避難所
避難準備	避難所を確認し、必要な物資を準備	大規模な避難所、近所は避難所を確認し、必要な物資を準備	1人1人避難所、近所は避難所を確認し、必要な物資を準備	1人1人避難所、近所は避難所を確認し、必要な物資を準備	1人1人避難所、近所は避難所を確認し、必要な物資を準備
避難行動	避難所を確認し、必要な物資を準備	大規模な避難所、近所は避難所を確認し、必要な物資を準備	1人1人避難所、近所は避難所を確認し、必要な物資を準備	1人1人避難所、近所は避難所を確認し、必要な物資を準備	1人1人避難所、近所は避難所を確認し、必要な物資を準備

避難場所や時間、
避難準備にかかる時間は？

避難するまでに「だれが」、「何を」
したらよい？

- 地域の特徴や水害リスクを学びます。
- 洪水時に得られる情報と、防災行動を時間軸で考えます。

「避難判断トレーニング」とは？



- 特定の水害シナリオ（タイムライン）に応じて、行政等から提供される情報を体験し、避難すべきタイミングを考えます。

- どんな情報が来るの？
- いつ判断するの？
- いつ行動するの？

「クロスロード」とは？

問. 大雨で間もなく氾濫危険水位です。
そのとき、あなたは避難しますか？

Yes避難する

No避難しない

側溝に足を取
られる可能性

ジレンマ

浸水して逃場が
なくなる可能性

- 「岐路」「分かれ道」のことです。水害対応には「正解はない」といわれ、たくさんの「分かれ道」があります。

- 様々な「分かれ道」を通じて、適切な状況判断力を身に付け、「自分の命は自分で守る」力を養います。

「クロスロード」はチームクロスロードの商標登録です。クロスロード(大雨行動訓練編)の目的外利用や、クロスロード(大雨行動訓練編)の内容(設問を含む)の変更は行わないよう、よろしくお願ひします。内容の変更を検討される場合は愛知県建設部河川課企画グループまで、ご相談ください。

II. 事前準備

訓練は複雑なオペレーションがあるため、事前の準備が必要です。

町内会役員、市町村職員、支援者の3者で、以下の内容を中心に、当日の実施内容を話し合っておきましょう。

会場の確保

小規模な講堂・体育館程度の広さの部屋が良いでしょう。

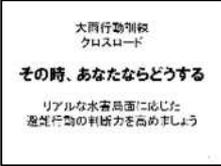
- ・スクリーンを前面に配置し、訓練時は4グループ程度に分かれ、更にその後、移動もあります。
- ・参加者が移動できる程度の一定の広いスペースが必要になります。

リハーサルを行ってもよいでしょう



当日に必要な道具

以下の道具が必要となりますので、役割を決めて準備ください。

担当	場面	持ち物	数量
地区 役員	全体	スクリーン、プロジェクター	1台
		パソコン (Microsoft PowerPoint がインストール済み)	1台
	マイ・タイムライン 作成	マイ・タイムライン (厚紙に印刷)	人数分
		動画「みずから守る川の防災情報」 	パソコンの中に保存
	避難判断 トレーニング	イベントカード (A3サイズ以上が望ましい)	1部
		避難先を示す看板 (A3サイズ以上が望ましい)	1部
		セロハンテープなど (看板を貼るため)	必要量
		データ (避難判断トレーニング (ビデオ) .pptx)  ※「洪水予報河川」と「水位周知河川」 でビデオが異なりますので、河川 に合わせてご利用ください。	パソコンの中に保存
	クロスロード	データ (避難の留意点の話し合い.pptx) 	パソコンの中に保存

当日に必要な人員

- 全体司会 (町内会・自治会代表者など) 1名
- 市町村職員 1名
- 講師 (支援者) 1名
- サポート (支援者) 3名

ハザードマップが配布済みの場合は、参加者に持参していただいてもよいでしょう



Ⅲ. 実施内容



①マイ・タイムライン作成 (45分)

(1)動画「みずから守る川の防災情報」による学習

河川水位情報の見方や取得方法などを知ることが、命を守ることに繋がります。まずはそれをまとめたビデオを参加者全員で鑑賞し、訓練に必要な基礎知識を共有します。

自ら学ぶこと (地区役員が説明)

(2)見るべき水位計の確認と「マイ・タイムライン」の書き方

各個人の「マイ・タイムライン」をまとめるために、まずはいつ避難を開始すれば良いか、「だれが」、「何を」するのか、水位情報と避難情報の関連、みずプロメールなどについて学習することを通じて、一人ひとりが考えます。

市町村毎で独自の防災情報や避難情報などを配信するサービスやアプリがある場合は合わせて紹介するとよいでしょう



参加者一人ひとりで記入する

(3)マイ・タイムライン記入

(1) (2) で学んだことを基に、一人ひとりでマイ・タイムラインに記入をしてもらいます。

水害をみずからの問題として、1人ひとりが考えることを目的としているので、原則として参加者をご自身でマイ・タイムラインに記入します



②避難判断トレーニング

(60分)

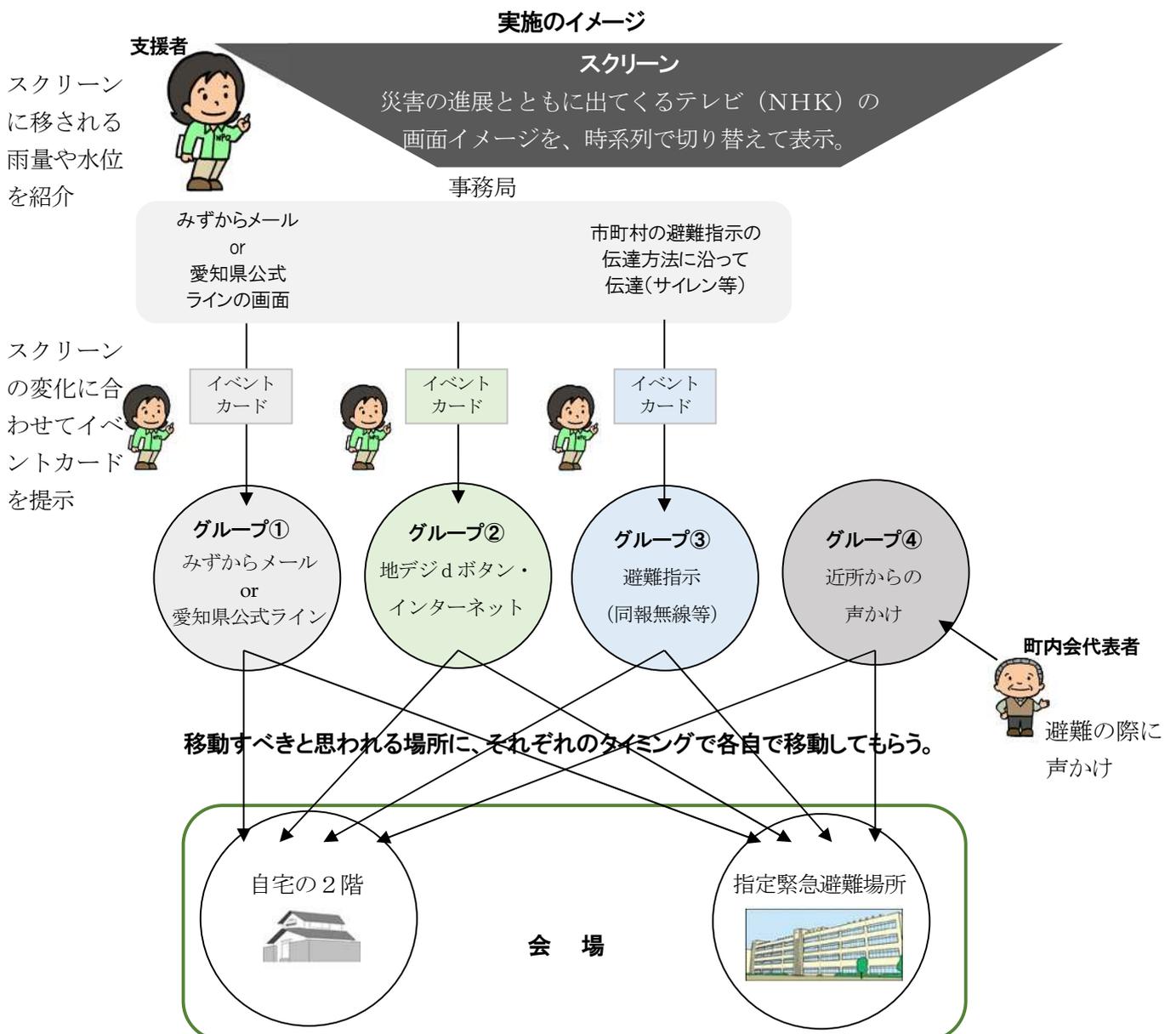
(1)内容説明・グループ分け

参加者に対して、以下の4つの「情報」の中から、「自分は受け取れる」と思うグループに分かれてもらいます。

グループ① みずからメール or 愛知県公式ライン	グループ② 地上デジタル放送 d ボタン・ インターネット	グループ③ 避難指示 (同報無線等)	グループ④ 近所からの声かけ (町内会・自治会の連絡網)
---------------------------------	-------------------------------------	-----------------------	------------------------------------

(2)避難判断トレーニングの実施

関東・東北豪雨の鬼怒川決壊をモデルとして作成した水害シナリオ (タイムライン) にて、この地域で発生した際に想定される状況のテレビ画面をスクリーンに映します (避難判断トレーニング (ビデオ) .pptx)。参加者は、提供されたそれら情報を見て、指定緊急避難場所への避難か自宅の2階 (緊急一時避難) か、選択をして移動してもらいます。



【事務局の対応】

スクリーンに映し出された画面に合わせて・・・



左上のイベント番号を確認し、該当するイベントカードを提示します。

イベントカードを提示します



【訓練は2回実施】

訓練をより効果的にするために、2回実施すると良いでしょう。

(3)話し合い

グループ①～④で、各グループから1名ずつ代表者を選出し、「良かったこと」「心配なこと」「気づいたこと」等を全体に発表してもらおうと良いでしょう。

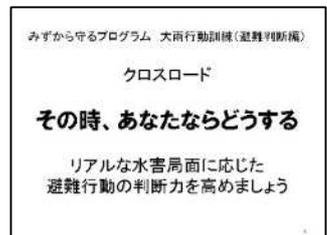
③クロスロード (30分)

「②避難判断トレーニング」は、ある特定の水害シナリオの基に実施しましたが、実際の水害時の対応には正解はありません。クロスロードの実施により、水害時の多様なリスクを学びましょう。

実施する地域に合わせて1～2問の設問を選んで実施しましょう。

「大雨行動訓練クロスロード.pptx」(巻末参照)を活用すれば、スライド通りに話すだけでクロスロードが実施できます。途中で2択の質問がありますので、参加者には挙手等で明示してもらいましょう。

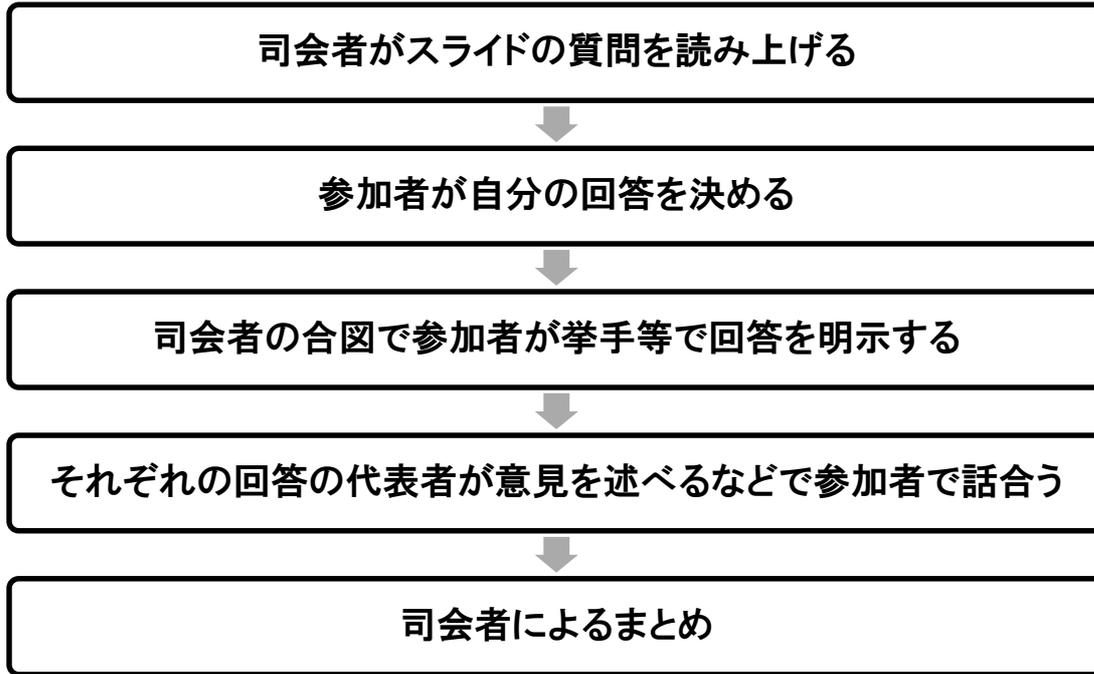
答えはありません(どちらも正解で、どちらも誤り)ので、それぞれ代表者に意見を述べてもらう等で、水害のリスクを全員で話し合しましょう。



“どちらが適切なのか” “どうあるべきか” 答えを決めるのではなく、参加者それぞれで状況や場所が異なることや、多様な意見を共有できる雰囲気づくりが重要です

「クロスロード」はチームクロスロードの商標登録です。クロスロード(大雨行動訓練編)の目的外利用や、クロスロード(大雨行動訓練編)の内容(設問を含む)の変更は行わないよう、よろしくお願い致します。内容の変更を検討される場合は愛知県建設部河川課企画グループまで、ご相談ください。

【クロスロードの流れ】



実施する地区の特徴や、参加者の年齢層や人数によって実施する設問は工夫が必要です。時間に余裕がある場合は、2問実施してもよいでしょう 

参考:全体のプログラム案

訓練	所要時間	詳細	担当
(開会)	5分	あいさつ	町内会役員 市町村職員 (支援者)
マイ・タイムライン作成 (45分)	10分	動画「みずから守る川の防災情報」による学習	町内会役員 (支援者)
	10分	見るべき水位計の確認と「マイ・タイムライン」の書き方	町内会役員 (支援者)
	25分	マイ・タイムライン記入	全員
避難判断 トレーニング (60分)	5分	グループ分け	全員
	15分	概要説明	町内会役員 (支援者)
	20分	トレーニングの開始	全員
	20分	まとめ	全員
(休憩)	5分	休憩	全員
クロスロード (30分)	10分	話し合いの概要説明	町内会役員 (支援者)
	20分	話し合い	全員
(閉会)	5分	あいさつ	町内会役員

司会進行：地区代表者、役員など

参考:大雨行動訓練の水害シナリオ

※このシナリオは、洪水予報河川の一般的な流れで作成しています。「日光川」の箇所を適宜修正下さい。

時間	発生した事象	全グループ共通 テレビ・ラジオ	グループ別イベントカード			
			グループ① みずプロメール または 愛知県公式ライン	グループ② dボタン・インターネット	グループ③ 避難指示	グループ④ 声かけ避難
イベント①	洪水注意報が発令された	洪水注意報	メッセージ配信 (洪水注意報)			
イベント②	大雨洪水警報が発令された	大雨洪水警報	メッセージ配信 (大雨洪水警報)			
イベント③	日光川ではん濫注意水位到達	日光川はん濫注意情報 (洪水注意報)	メッセージ配信 (はん濫注意水位)	はん濫注意水位超過		
イベント④ ※	日光川で避難判断水位到達	日光川はん濫警戒情報 (洪水警報)	メッセージ配信 (避難判断水位)	避難判断水位超過		
イベント⑤		高齢者等避難開始			高齢者等避難開始	(避難を始めた人から声かけ)
イベント⑥ ※	日光川ではん濫危険水位到達	日光川はん濫危険情報 (洪水警報)	メッセージ配信 (はん濫危険水位)	はん濫危険水位超過		
イベント⑦	日光川ではん濫危険水位超過	避難指示			避難指示	(避難を始めた人から声かけ)
イベント⑧	日光川ではん濫発生(越水)	日光川はん濫発生情報 (洪水警報)	メッセージ配信 (はん濫発生情報)	はん濫発生情報	緊急安全確保	
イベント⑨	日光川で堤防決壊した	堤防決壊を知らせるニュース				

※ビデオでは、愛知県と気象庁の共同発表版(水位周知河川)と愛知県単独発表版(洪水予報河川)の二つがあります。河川に合わせて使い分けてください。

参考:マイ・タイムライン記入例

【考える】わたしのマイ・タイムラインをつくろう！！

	3日前	2日～半日前	5時間	3時間	0時間
危険度 警戒レベル	1	2	3	4	5
気象等の 情報	早期注意情報	大雨注意報・洪水注意報 冠水注意情報	大雨警報・洪水警報 冠水警戒情報	土石災害警戒情報 冠水危険情報	大雨特別警報 冠水発生情報
避難情報等	避難について考え始める	ハザードマップなどで避難するときに何をすべきを確認する	危ない場所からお年寄りなど避難に時間がかかる人は避難する 【高齢者等避難】	危ない場所から全員避難する 【避難指示】	命を守る行動をする 【緊急安全確保】
わたしや 家族が とるべき行動					避難場所

かいてみよう！！

1 右側①～④の避難所や持ち物、何をすべきを考え、かいてみよう。

2 マイ・タイムラインを完成させよう
①で決めた避難場所をかきます。
■大切なこと■
「避難開始」「避難完了」のタイミングをかきます。
②でチェックした「すること」をかきます。

① 避難場所とそこまでの時間は？

避難場所(近くの避難所)

場所

歩いて 分 (A)

車で 分 (A)

避難場所は

いくつか考えておきましょう

② 避難までにだれが何をします？

何をします だれが

- 気象情報・避難情報を確認
- 非常持ち出し品・備品の確認
- 必要なものの買い出し
- 家具や家電などの2階等への移動
- 家の周りの点検
- 飛ばされそうなものの片付け
- 窓の鍵の締り
- 携帯電話の充電
- 避難所の確認
- 近所への声かけ
- 家族や親戚と連絡を取り合う
- 避難の支援者に連絡
- その他()

③ 避難準備にかかる時間は？

分 (B)

④ 避難を決めてから避難場所に到着するまでの時間

(A) 分

+

(B) 分

↓

分

■ いっしょに避難する人

避難する時に支援が必要な人がいるかチェックしてみよう！！

お年寄り 赤ちゃん

障がい者 ペット

■ 避難する時の持ち物

-
-
-
-
-
-

3

【考える】わたしのマイ・タイムラインをつくろう！！

■マイ・タイムラインの作成例 (わたし10歳)が記入した時の例/お父さん・お母さん・わたし)

	3日前	2日～半日前	5時間	3時間	0時間
危険度 警戒レベル	1	2	3	4	5
気象等の 情報	早期注意情報	大雨注意報・洪水注意報 冠水注意情報	大雨警報・洪水警報 冠水警戒情報	土石災害警戒情報 冠水危険情報	大雨特別警報 冠水発生情報
避難情報等	避難について考え始める	ハザードマップなどで避難するときに何をすべきを確認する	危ない場所からお年寄りなど避難に時間がかかる人は避難する 【高齢者等避難】	危ない場所から全員避難する 【避難指示】	命を守る行動をする 【緊急安全確保】
わたしや 家族が とるべき行動	わたしがテレビで気象情報を確認する 母が非常持ち出し品・備品を確認する	お父さんが家の周りを点検する お母さんが外の植木鉢を家の中に入らせます みんなで携帯電話の充電をする お父さんが避難場所を確認する	避難開始 → 避難完了		避難場所 ●●集会所

かいてみよう！！

1 右側①～④の避難所や持ち物、何をすべきを考え、かいてみよう。

2 マイ・タイムラインを完成させよう
①で決めた避難場所をかきます。
■大切なこと■
「避難開始」「避難完了」のタイミングをかきます。
②でチェックした「すること」をかきます。

① 避難場所とそこまでの時間は？

避難場所(近くの避難所)

場所 ●●集会所

歩いて 分 (A)

車で 分 (A)

避難場所は

いくつか考えておきましょう

② 避難までにだれが何をします？

何をします だれが

- 気象情報・避難情報を確認 わたし
- 非常持ち出し品・備品の確認 お母さん
- 必要なものの買い出し
- 家具や家電などの2階等への移動
- 家の周りの点検
- 飛ばされそうなものの片付け
- 窓の鍵の締り
- 携帯電話の充電 みんな
- 避難所の確認 お父さん
- 近所への声かけ
- 家族や親戚と連絡を取り合う
- 避難の支援者に連絡
- その他()

③ 避難準備にかかる時間は？

90 分 (B)

④ 避難を決めてから避難場所に到着するまでの時間

(A) 20 分

+

(B) 90 分

↓

110 分

■ いっしょに避難する人

避難する時に支援が必要な人がいるかチェックしてみよう！！

お年寄り 赤ちゃん

障がい者 ペット

■ 避難する時の持ち物

- 貴重品
- 携帯電話・充電器
- 薬

3

みずから守るプログラム 大雨行動訓練(避難判断編)

クロスロード

その時、あなたならどうする

リアルな水害局面に応じた
避難行動の判断力を高めましょう

1

ケース1 午後8:00

状況

下流の大きな川から離れて住んでいますが、近くには水位計のない支流の小さな川があります。

台風が近づき前線の影響で、雨がひどくなっており、少なくとも数時間は局所的に降り続く様子です。

水位計のある下流の大きな川の水位は上昇し、氾濫危険水位にまもなく到達しますが、支流の小さな川の様子はよくわかりません。

その時、あなたは避難所に移動しますか？

2

ケース1 その時、私は

YES

**避難所へ
移動する**

NO

避難しない

3

ケース1 答えはありませんが

○YESの方(避難する方へ)へ

下流の氾濫危険水位は、避難判断の目安になり、避難のタイミングになるものですが、支流の小さな川がすでに氾濫している場合もあります。避難経路に支流の川がある場合は、**避難時の被災にも注意**が必要です。

○NOの方(避難しない方)へ

支流の小さな川が氾濫し、**逃げ場をなくした後に、大きな川(本川)の堤防が決壊(破堤)し、広域的に浸水**する可能性もあります。

4

ケース2 午前9:00

状況

あなたは、大きな川の近くの2階建の住宅に、小さな子供と住んでいます。

その川の河川水位は、氾濫危険水位に到達しており、上流部では昨夜遅くに越水した場所があるという情報を聞き、行政からは避難勧告がでていることをテレビで確認しました。

知人に電話したところ、既に避難しており、避難途中に浸水している道路があると聞きました。

その時、あなたは避難所に移動しますか？

5

ケース2 その時、私は

YES

**避難所へ
移動する**

NO

**避難しない
(2階へ避難)**

6

ケース2 答えはありませんが

● YESの方(避難所へ行く方)へ

避難指示がでた場合、**避難ルートにどのようなリスク**があるかも考え、総合的に避難行動を考える必要があります。逃げ遅れた場合は、2階への避難も命を守る行動として重要です。

● NOの方(2階へ避難する方)へ

大きな川の近くは、**堤防の決壊(破堤)**等による**家屋倒壊の危険**もあるため、**内水氾濫**の前に避難することが最善ですが…。

7

ケース3 午後3:00

状況

避難所から2km離れた2階建の住宅に、足の悪い介護の必要な母親と住んでいます。

河川水位は上がり、**氾濫注意水位**に到達し、行政からも避難準備情報がでていました。

避難所へ行く準備をしている最中、**避難指示**に変わりました。

その時、あなたは避難所に移動しますか？

8

ケース3 その時、私は

YES

**避難所へ
移動する**

NO

**避難しない
(2階へ避難)**

9

ケース3 答えはありませんが

○ YESの方(避難所へ行く方)へ

避難ルートにどのようなリスクがあるかも考え、総合的に避難行動を考える必要があります。逃げ遅れた場合は、2階への避難も命を守る行動として重要です。

○ NOの方(2階へ避難する方)へ

高齢者避難は十分な避難の時間が必要です。高齢者の家族は、避難判断水位に達する前段階で避難所に向かうことが賢明ですが…

10

ケース4 市役所(町村役場)への電話

状況

川の近くに住んでいます。記録的短期間大雨情報が発令されました。最寄りの川は、氾濫注意水位に到達しました。雨は、強くなっていますが、まだ避難できる状況です。

あなたは、避難所に避難しようか悩み、仕事
中の家族に相談したところ、市役所(町村役場)
に聞いてみたらどうかとアドバイスを受けました。

**その時、あなたは市役所(町村役場)
に電話しますか？**

11

ケース4 その時、私は

YES

**市役所(町村役場)
に電話する**

NO

**電話せず、
避難所へ行く**

12

ケース4 答えはありませんが

○ **YES**の方(市役所(町村役場)に電話する方)へ
市役所(町村役場)では、避難所開設や避難指示の準備で、担当者が個別相談に十分対応できる時間がありません。**避難所開設は、テレビdボタンやインターネット等でみることができます**ので、みずから収集できる情報を事前に確認しておきましょう。

○ **NO**の方(避難所へ行く方)へ
避難ルートにどのようなリスクがあるかも考え、総合的に避難行動を考える必要があります。逃げ遅れた場合は、2階への避難も命を守る行動として重要です。

13

ケース5 溪谷沿い集落

状況

中山間地域の溪谷が形成されている中小河川の近くに住んでいます。

河川の水位は上がっていますが、水位計は、下流部の本流にしか設置されておらず、今後の水位が気になっています。

雨雲レーダーをみると、**上流部で50mm/時間以上の降雨**がしばらく続きそうです。

その時、あなたは避難所に移動しますか？

14

ケース5 その時、私は

YES

**避難所へ
移動する**

NO

**避難しない
(2階へ避難)**

15

ケース5 答えはありませんが

○YESの方(避難所へ行く方)へ

避難ルートにどのようなリスクがあるかも考え、総合的に避難行動を考える必要があります。逃げ遅れた場合は、2階への避難も命を守る行動として重要です。

○NOの方(2階へ避難する方)へ

中小河川は、水位の上昇が早く、住宅の場所や水流によっては家屋流出も懸念されます。川に近い方は、日頃から対応を考えておく必要があります。

16

ケース6 土砂災害

状況

裏山がある(新興住宅地の)2階建住宅に暮らしています。

家の近くを流れる河川の水位は、氾濫危険水位に到達していませんが、家の回りの坂道は、滝のような状況になっており、昨日の昼からの雨は夜半になっても衰えていません。

カミナリも鳴り響き、家から出るのが怖い状況です。

その時、あなたは避難所へ移動しますか？

17

ケース6 その時、私は

YES

**避難所へ
移動する**

NO

**避難しない
(2階へ避難)**

18

ケース6 土砂災害

●● YESの方、NOの方へ

土砂災害は、河川の水位とは関係なく、累積雨量等が避難判断の基準になりますが、明確な避難指示等の基準がなく、避難判断のタイミングが大変難しいのが現実です。

台風のように雨が予測できる時は、早めの避難が重要ですが、状況次第では、安全な場所に身を寄せてください。

19

(注)

“クロスロード”は、「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」（文部科学省）の一環として、チームクロスロード（矢守克也京都大学防災研究所教授、吉川肇子慶應義塾大学商学部教授、網代剛産業技術大学院大学助教）によって開発された災害対応カードゲーム教材で、チームクロスロードの著作物であり、商標登録されています。

阪神・淡路大震災（1995年）時の実際の災害対応事例を参考に、2004年7月に「神戸編・一般編」が完成し、その後「神戸編・市民編」、「災害ボランティア編」等が作成され、これらは、京都大学生生活協同組合を通して一般にも販売されています。

“クロスロード 大雨行動訓練編”は、クロスロードのゲーム形式を活用した研修ツールとして、愛知県建設部河川課がチームクロスロードと覚書を締結したうえで作成したもので、その著作権は、愛知県河川課とチームクロスロードが共有しています。

作成：令和7年3月

発行：愛知県建設部河川課

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

052-961-2111(代)

kasen@pref.aichi.lg.jp